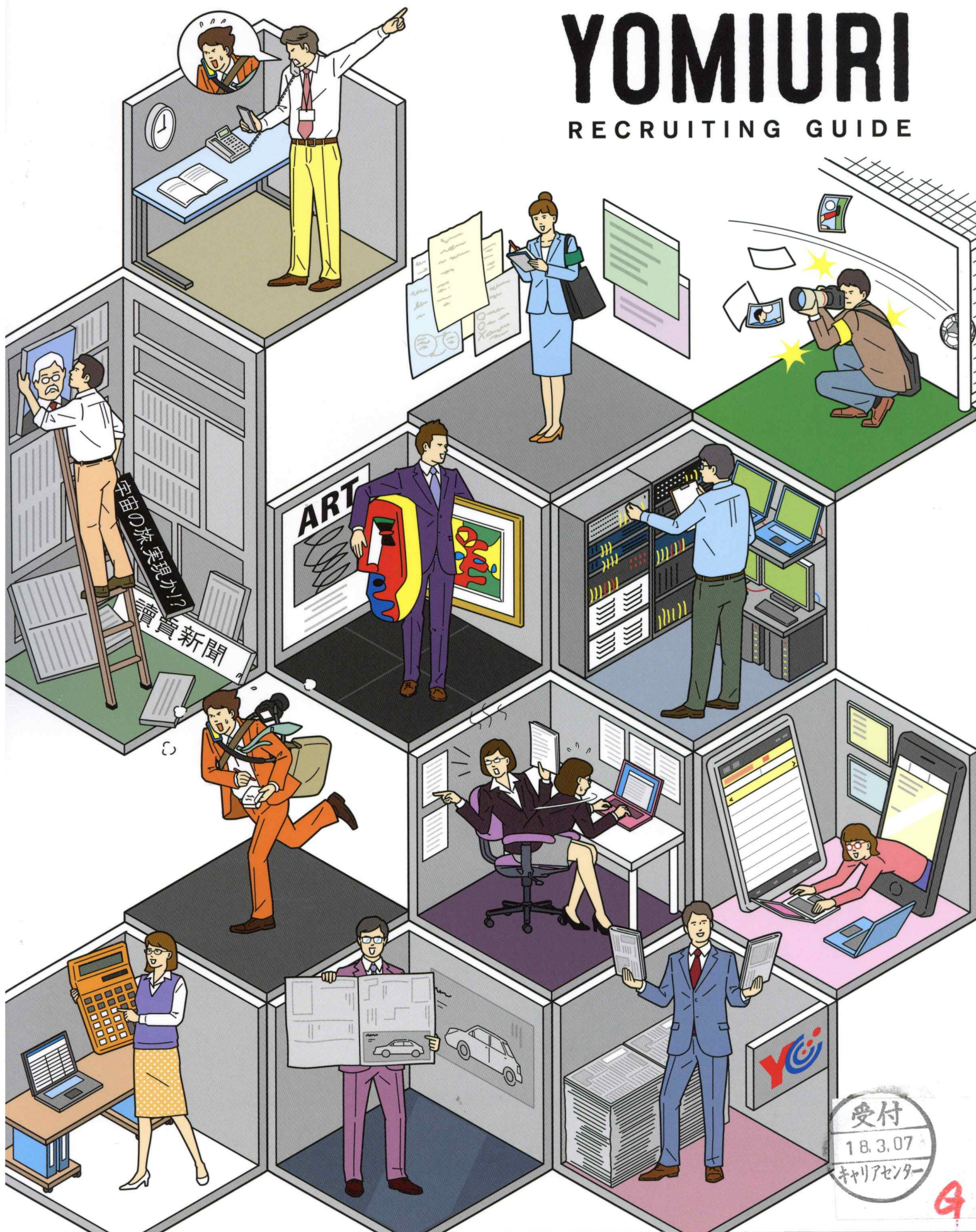


YOMIURI

RECRUITING GUIDE



好奇心を、シゴトに。



YOMIURI

RECRUITING GUIDE

04 これが「読売新聞」のシゴト

06 記者 | EDITORIAL

13 新聞記者図鑑

14 社員のスケジュール大公開!

16 広告 | ADVERTISING

17 販売戦略 | CIRCULATION

18 事業 | CULTURE & SPORTS PROJECTS

19 経営管理 | ADMINISTRATION & FINANCE

20 技術総合職 | PRODUCTION

21 メディア局 — ジャーナリズム∞デジタル —

22 拡がるメディア

23 ヨミウリ・トピックス

24 DIVERSITY

26 内定者Q&A

現役社員の
エピソードが満載!



働く人も様々!
働き方もいろいろ!



※所属や肩書きは取材当時のものです。

大きな声では言えない

Masaaki Takeuchi

入社して長野支局に赴任した。1年目の思い出が三つある。

善光寺が焼けた。日は暮れて、締め切りまで時間が無い。現場、警察、消防と、手分けして取材に散った。僕は写真を一手に任された。撮り終えて職場に戻り、現像して呆然となった。炎上の写真がすべて真っ黒で、1枚も写っていない。「おい、あと5分で締め切りだぞ」。誰かがドアを叩いた。出たくない。このまま暗室のなかで一生暮らしたい。そう願ったのを覚えている。燃える善光寺の写真が載らなかったのは読売だけである。三振1。
長野市で列車事故が起きた。国鉄の修学旅行列車が貨車と衝突し、中学生が300人以上も負傷した大事故である。僕はそのとき、遠く離れた上高地で山歩きをしていた。あわてて帰社すると、仕事はすでに先輩・同僚の手で片づいている。紙面に1行の貢献もしない身に、打ち上げの酒が苦かった。三振2。
誘拐事件が起きた。遺体が見つかり、やがて容疑者が捕まった。読売は特報を連発し、長野支局のちに局長賞をもらうのだが、僕

は荣誉と関係のないところで話題の人物になった。事件のさなか、社有車を運転していたトラックと衝突したのである。幸運にも傷ひとつ負わなかったが、車は大破と中破の中間程度に壊れた。支局長が悲しそうな顔で本社に始末書を書いた。当時の仲間が集まると事件の話になる。誰々があの特ダネを書いた。誰々の夜討ちが功を奏した。「そうそう、竹内が「やりました!」って叫びながら支局に飛び込んできてさ」「どんな大ネタをやりましたかと思えば……ハハハ」。三振3。
会社を辞めもせず、辞めさせられもせず、30余年後の今、こうして「入社案内」の筆を執っている。人は思うだろう。満身創痍になっても続けたいほど、新聞づくりは面白い仕事なのか、と。あるいは、読売新聞って懐が深い会社なのね、と。どちらの感想も、そう的を外れていない。僕よりもデキる君よ。いつか、僕には縁のなかった手柄話を聴かせてくれ。4三振も5三振もして、僕の記録を塗り替える君よ。いつか、ゆつくり酒でも飲もう。

東京本社 取締役論説委員

竹内 政明

たけうち・まさあき

朝刊コラム「編集手帳」担当者。古今東西の名言やエピソードを交えながら、うれしい話題に喜び、理不尽な事件には憤りの声をあげる。ニュースを巧みにさばく筆致にはファンが多い。著書に「編集手帳」(中央公論新社刊)、「名言手帳」(大和書房刊)、「名文どろぼう」(文藝春秋刊)がある。

1979 読売新聞社入社、長野支局
1983 地方部内信課
1984 経済部
1997 経済部次長
1998 論説委員
2001 「編集手帳」担当

これが「読売新聞」のシゴト

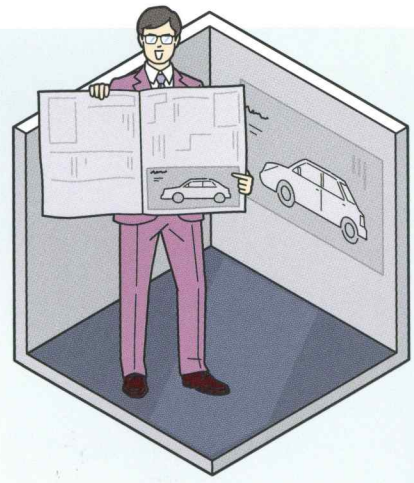


「記者」

EDITORIAL

ペンを片手に最新のニュースを追いかけ、時には世に埋もれた事実を掘り起こし、読者に届けるのが記者の仕事です。政治部・経済部・社会部をはじめ、文化・スポーツ・科学など幅広い分野についてそれぞれ専門的に取材をする記者もいます。激動する世界をウォッチする海外特派員もたくさんいます。事件や国際政治の歴史的瞬間、スポーツの決定的瞬間など、人々の記憶に残る報道写真を撮影する記者がいます。社会が忘れてはならない震災や大事件の記憶を伝え続けることも大切な役割です。誰もが情報を発信できる時代だからこそ、事実を忠実に、社会に信頼されるニュースを届け続けていくプロの記者が、ますます重要になっていくでしょう。

900万部の発行部数を持つ読売新聞や総合ニュースサイト「ヨミウリ・オンライン」などの広告スペースを使って、様々な企業や団体の広告戦略を考えるのが広告局の仕事です。広告代理店との仕事の違いは、新聞という自社メディアの特性を生かした自由な仕掛けができる点です。アイドルが出演する映画のプロモーションなら、等身大の別刷り広告を折り込んで話題を呼んだり、自動車メーカーがクライアントならば、「ドライブに行きたくなるような記事広告」を提案してみる。時には新聞社のネットワークを使ったイベントや著名人の対談を行うなど、世の中をあっと言わせる仕掛けができるのも魅力です。新聞だけにとどまらず、日本テレビやマロニエゲートなどのグループ企業と連携した企画もあります。



「広告」

ADVERTISING



「販売戦略」

CIRCULATION

世界一の発行部数で知られる読売新聞。その圧倒的な部数を支えるのが、販売戦略です。販売戦略の社員は、全国約5000店のYC(=専売店)とタッグを組み、それぞれが担当する地域の特性に合わせて、「読売新聞のファン」を増やしていくための戦略を考えます。読売新聞グループが持つ巨人軍やオーケストラなどの多様なコンテンツを生かしたイベントを開催することもあれば、配達網を生かした防犯活動や高齢者の見守りなどを通じて地域社会に貢献していく活動も手がけます。読者だけでなく、地域全体を巻き込みながら、マスメディアとしての信頼を育てていきます。

「職種のデパート」と称される新聞社には、記者以外にも、広告、販売戦略、事業、経営管理、技術総合職などの幅広い仕事があります。発行部数世界一という影響力のある読売新聞だからこそ、「社会性」と「可能性」を持った仕事ばかり。これらが相互に機能しあうことで、「社会の公器としての新聞」が成り立っているのです。

文化・スポーツ・教育など多方面でのイベントを企画し運営していく仕事です。国内外の美術品を集めた展覧会を企画・運営する文化事業と、読売巨人軍の公式戦や箱根駅伝をはじめ、各種スポーツのビッグイベントを手がけるスポーツ事業、学生向けの英語や科学・作文などのコンテストなども開催しています。美術展では、展示品の魅力を幅広く、わかりやすく伝えられるよう、専門家と一緒に知恵を絞ります。スポーツイベントでは、選手が存分に力を発揮し、お客さんも喜んでもらえる工夫をこらして盛り上げます。時には自ら企画を考え、新しいイベントを生み出すこともあります。自分らしいアイデアを基に、新聞社の持つネットワークをフル活用して、世の中に驚きや感動を生み出していく仕事です。



「事業」

CULTURE & SPORTS PROJECTS

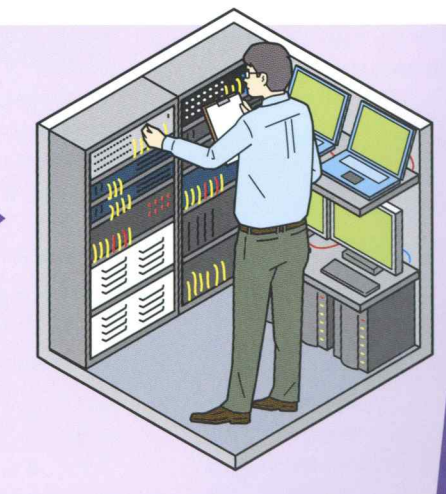
「経営管理」



ADMINISTRATION & FINANCE

世界で一番信頼されるメディアを築いていくための土台、それが経営管理の仕事です。ひとつは、社員が元気に、安心して働くための体制をつくる「ひと」にまつわる総務部門。もうひとつは、会社の収入や資産など「お金」にまつわる経理部門です。総務部門は、社員の人事、採用、研修や健康管理をはじめ、女性社員が働きやすい環境を作るため、社内に新聞業界初の保育所も開設しました。経理部門には、総合メディア企業である読売グループ全体に目配りした決算業務や会計監査、新聞用紙などを扱う資材調達があります。激変するメディア業界の中で、信頼される情報を発信し続けていくための土台を築いていく、経営管理はその中核を担う仕事です。

文系職場と思われがちな新聞社ですが、多くの理系の人材が活躍しています。記者が取材した情報を世の中に届けるための手段はたくさんあります。新聞として届けるためには、現場の記者が送った記事を新聞の形にレイアウトし、印刷工場にデータを送信、高速で紙に印刷する必要があります。この過程のシステム全てに関わるのが新聞社の技術者=技術総合職の仕事です。また、読売新聞ではデジタル分野にも経営資源を投入しています。Web上でニュースをどう見せるか？ Webの世界で人々にニュースをどうリーチさせるか？ ビッグデータを解析してどう収益につなげるか？ そんな「デジタル戦略」も活躍の舞台となっています。新聞作りの「いま」を支え、さらに「未来」の姿を構築するのが技術総合職です。



「技術総合職」

PRODUCTION

記者 EDITORIAL



桑文野 AYANO KUME
社会部 東京本社 2010年入社

- CAREER PATH**
- 1年目 (2010年) 東京本社地方部立川支局 虐待などで親と暮らせない子を育てる里親家庭の取材。思いを伝える仕事のやりがいを知る。
 - 2年目 (2011年) 東日本大震災が発生。4月と8月に宮城で被災者の話に耳を傾け、東京と地方の距離を感じる。
 - 4年目 (2013年) 東京本社地方部町田支局 取材を通じて山好きに。自然のそばで暮らす人々の知恵や強さから生き方を学ぶ。
 - 6年目 (2015年) 東京本社社会部読売KODOMO新聞編集室 小学生にわかりやすく伝えるって難しい!料理や受験のページを担当し、悪戦苦闘。
 - 7年目 (2016年) 東京本社社会部 刑事裁判や連載企画を担当。更生や死刑の問題について日々、学んでいます。

裁判は、罪を犯した人を裁くだけでなく、社会で起る様々な争いを法的に解決する場です。金銭トラブルから労働問題、公害、相続などのあらゆるテーマを取材することができたり、裁判の流れとともに遺族や関係者の思いを取材するのやりがいがあります。



裁判所の様子



様々な声を聞き、発信することで社会を動かす。

新聞記者を目指したきっかけを教えてください。

もともとマスコミ志望だったわけではなく、学生時代は、途上国の支援や児童福祉の問題など様々なテーマに関心を持っていました。ケニアの農村で母子保健教育に取り組む市民団体の活動に参加したり、フィリピンで子ども向けの環境教育のイベントの手伝いをしたりと、当初は海外への興味が強かった気がします。その後、児童相談所でアルバイトをするなどし、もっと足元のことを知りたいと思うようになり、現場を歩く記者という仕事にたどり着きました。中高生の頃に興味のある新聞記事のスクラップをしており、文字で伝える仕事に関心があったことも、理由だと思います。

新人時代のエピソードを教えてください。

1年目の記者が必ず経験するのが、夏の高校野球の取材です。野球好きの人にとっては、楽しい取材のはずですが、ど素人の私は、ルールもスコアシートの付け方もわからず、大苦戦。ルールを覚えてくれた先輩に、「ファウルは変化球ですか」と質問し、呆れられたことも……。試合の流れや戦略についての記事がうまく書けなかったため、球児の人となりや思いに焦点をあてた記事を積極的に出すように努めました。そんな風に取材をしてい

るうちに、球児への思い入れができ、試合の結果に涙するようになりました。

現在の仕事内容、担当を教えてください。

社会部で刑事裁判などを担当しています。刑事裁判の進捗や、裁判手続きの課題などを伝えたり、裁判に関係する当事者への取材を行ったりしています。裁判員裁判も導入から7年を迎えており、なじみの薄い裁判のことをわかりやすく伝えるのが役割です。

これまでで一番印象に残った取材、記事はなんですか？

入社1年目に、虐待や死別などで実の親と暮らせない子供を育てる里親家庭の取材をしました。様々な家庭にお邪魔し、時間をかけて話を聞かせてもらったことが、印象深く残っています。その他、東日本大震災を始めとする震災の取材や、刑事裁判の遺族の取材など。

記者という仕事の面白さ、醍醐味を教えてください。

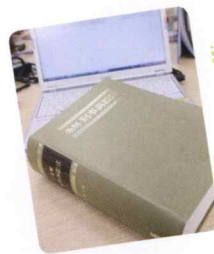
様々な思いを抱えている人の生の声を聞き、発信することで社会を動かすことができることです。普通に暮らしているだけなら、関わりあうこともなかった人と出会い、その心の内を聞くことも、この仕事の醍醐味だと思います。

記者という仕事の難しさを教えてください。

担当にもよりますが、取材相手との距離の取り方は難しいのではないのでしょうか。取材の過程で仲良くなった相手のことを客観的に見つめたり、批判したりした上で、関係を継続していく難しさもあると思います。

読売新聞の持つ力、可能性についての考えをお聞かせください。

この先、デジタル化が進んでも、伝える仕事、報道の仕事は、社会にとって不可欠です。生ニュースを伝えつつ、背景を深く掘り下げようとする記事を送り出す努力がさらに求められると思います。一方、紙の新聞が大切な情報源である人たちがたくさんいるのも確かです。そうした読者に何を伝え、届けるべきかを考えつつ、培った取材力や編集力を柔軟に変化させていくことが必要だと思います。



「条解刑事訴訟法」
刑事裁判の手続きがわかりやすく解説してあります。取材を進める上で欠かせないバイブル。

記者 EDITORIAL

- CAREER PATH**
- 1年目 (2009年) 大阪本社地方部高松総局 配属直後は、原稿用紙に手書きで出稿。何度も書き直ししながら基礎を学ぶ。
 - 2年目 (2010年) 香川県沖に海保のヘリが墜落。目撃者を探し、周辺の島を自転車で走り回る。
 - 3年目 (2011年) 福島第一原発事故直後から四国電力を担当。経済部を志望するきっかけに。
 - 5年目 (2013年) 大阪本社地方部京都総局 花火大会会場で爆発事故。怒る遺族や被害者の取材に葛藤の日々。
 - 6年目 (2014年) 山鈴巡行が49年ぶりに2回開催された祇園祭を担当。町衆の男気に触れる。
 - 7年目 (2015年) 大阪本社経済部 電機大手シャープの経営危機が発覚。1年半、スクープの打ち合いが続く。
 - 8年目 (2016年) 世界最大のゲーム見本市「E3」で米国出張。下手な英語を駆使して取材。
 - 現在 関西電力や大阪ガスなどエネルギー業界を担当。一面を狙い夜回りの毎日。



杉山正樹 MASAKI SUGIYAMA
経済部 大阪本社 2009年入社

関西の経済取材の中心地「大阪取引所」。社長交代や企業買収の発表などが行われる。決算発表の時期には、1日に100社近い企業が記者会見し、3、4件をはしごすることもある。



メディアが多様化する中、信頼は大きな武器。

新聞記者を目指したきっかけを教えてください。

「人の声」を伝えたいと思ったのがきっかけです。大学院で「限界集落」と呼ばれる過疎問題を研究していました。京都府綾部市の山間部へフィールドワークに出かけ、集落で暮らす高齢者から「あと何年かすると消えてなくなってしまう」との声を聞きました。支援の輪が広がってほしいと願っても、原因や対策を分析する研究業務では、多くの人に伝えることは難しい面があります。一方、新聞は、様々な人に読まれ、「人の心」を動かす力を持っていると感じました。地べたを歩き、埋もれた声を代弁したいと、新聞記者を目指しました。

読売新聞を選んだ一番の決め手を教えてください。

「人に最も近い新聞」が読売新聞だからです。就職活動をする中で、読売新聞の記者をしていた大学の先輩から「読売の記者には、とことん人に寄り添おうとするDNAが代々、受け継がれている」と教えてもらいました。そして、事件や事故の遺族宅に何度も通い続けることや、捜査員の帰りをひたすら待ち続けること……。日々、つらい思いばかりだが、事件や事故、政治、経済活動は、全て人々の思いや行動が形作っており、ニュースをあつかうということは人に寄り添うことが何よりも大事とのメッセージを送ってくれました。読売新聞なら「人の声」

を多くの人に届けられると感じ、当時、自宅を取っていた新聞は他紙でしたが、先輩の言葉をきっかけに読売新聞を第一志望にしました。

これまでで一番印象に残った取材、記事はなんですか？

シャープの経営危機です。2015年1月に液晶パネルの不振で経営危機が発覚、16年8月に台湾の鴻海精密工業に買収されるまで取材期間は1年半におよびました。執筆した記事は250本を超え、何度も一面を飾りました。他社との取材合戦が熾烈を極め、ネタ取りに躍起になっていました。そんな時、幹部の一人から言われた言葉は今も忘れません。「人員削減と書くのはいいが、その社員にも人生と家族があることは忘れるな」。経済を形作っているのは人であり、従業員一人ひとりです。担当を離れる間に掲載した連載「転生シャープ」では、「顔が見える記事を書きたい」と、営業現場で働く同世代の社員に密着しました。彼の「面白い商品を作るシャープが好き。ファンを作ってみせる」との言葉は、仕事への向き合い方を考えさせられました。

記者という仕事の面白さ、醍醐味を教えてください。

記者という仕事の醍醐味は出会いです。「読売新聞 記者」と書かれた名刺を出せば、企業

のトップ、政治家、自治体の首長、スポーツ選手、芸能人など様々な業界の人に会い取材をすることができます。取材やインタビューを通して、たくさんの人の人生や思いに触れられる仕事はほかにはないでしょう。担当から離れた後、記者と取材対象という利害関係を越え、休みの日に釣りやゴルフに行くなど「友人」になるケースもあります。「あの人会ってみたい。話を聞いてみたい」。そんな「ミーハー心」が記者にとっては大事なのだと思います。

読売新聞の持つ力、可能性についての考えをお聞かせください。

かわら版から始まった「新聞」。その紙面にもこだわっているのが読売新聞です。新聞離れや活字離れが叫ばれる中、インターネットの電子版を重視する新聞社もあります。しかし、紙は一度、印刷されれば修正することはできません。文字として一生残り続けます。確かな情報を提供する必要があり、その分、信頼も担保されます。メディアが多様化する中、「信頼」は大きな武器です。これからも、読売新聞は、情報と人、人と人をつなぐ新聞であり続けたいと思います。

在阪エネルギー大手各社幹部の記者会見や広報担当者への取材も行う。



記者 EDITORIAL



今村知寛 CHIHIRO IMAMURA
熊本支局 西部本社 2013年入社

CAREER PATH

1年目 (2013年) 西部本社熊本支局 興味のなかった高校野球。試合が進むに連れ、高校生のプレーに一喜一憂する。

3年目 (2015年) 熊本の製菓大手で不正が発覚。東京の応援も入り、大みそかまで取材に奔走した。

4年目 (2016年) 4月14日夜、震度7を観測した益城町へ。息の長い地震取材が始まった。

南阿蘇村立野地区は、6月の豪雨でも大きな被害を受けた。報道が減ったからといって、被災地の状況が劇的に好転したわけではない。伝え続けることの大切さを痛感した6か月だった。

熊本地震で大きな被害を受けた南阿蘇村立野地区。断水が続く地区で、あか牛を育てている男性に話を聞く。どんな状況の中でもそこで生きる生活者の姿がある。



被災地への関心を風化させないために、伝える責任がある。

読売新聞を選んだ一番の決め手を教えてください。

九州は、沖縄の基地問題、長崎の原爆、熊本の水俣病、ハンセン病などたくさんテーマを抱えています。異動は原則、西部本社の管内でありながら、全国を視野に働けるということが決め手の一つです。

新人時代のエピソードを教えてください。

宿直勤務中、県警から「白骨遺体発見」の広報がありました。広報文を受け取ったものの、そのまま眠りに落ちてしまいました。本社からの電話で目を覚まし、事態の大きさがくぜんとなりました。落ち込む間もなく警察署に向かい、その後すぐに現場に向かいました。記者の仕事は体力勝負。発生が続けば、休みや睡眠時間の確保がままならないこともあります。「食事の時間は自分で確保する」。新人時代にデスクから言われた言葉です。

現在の仕事内容、担当を教えてください。

特定の記者クラブに所属せず、普段は熊本地震や医療の取材を担当しています。地震で家族を失った人や、土砂崩れで長期の避難生活を余儀なくされている地区の取材をしています。避難者の多くが仮設住宅やみなし仮設

に移り、一見落ち着いたように見える被災地ですが、生活再建に向けた被災者の不安は尽きません。風化させないために伝える責任を感じています。

これまでで一番印象に残った取材、記事はなんですか？

2014年11月、県警の交通事故防止の取り組みにあわせ、バイク事故で大学生の息子を亡くした家族を取材しました。「乗っていたバイクも修理をして動くようになった。残された物は全て動いているのに、なぜ息子だけが……」。母親の言葉が胸に刺さりました。日々、起こる交通死亡事故は紙面上は、10行程程度の短い記事ですが、そこには残された「家族」や「友人」がいることを忘れないようにしたいと思った取材でした。

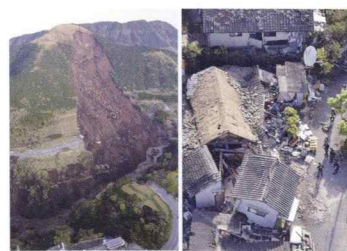
記者という仕事の面白さ、醍醐味を教えてください。

毎日新しい人や事象に触れることができることです。熊本での勤務は4年目を迎えましたが、2年間担当した警察取材にしても前年と全く同じ仕事はありませんでした。また、取材テーマが同じでも、記者次第で原稿の切り口も変わってきます。個性の出る面白い仕事だと思います。

読売新聞の持つ力、可能性についての考えをお聞かせください。

熊本地震の取材では、東京、大阪、西部の各本社から記者やカメラマンなど最大150人が熊本に入りました。応援記者の中には阪神淡路大震災、東日本大震災など災害取材を経験した記者もあり、今後の取材の進め方や資料整理などで多くの助言をいただきました。各記者の関心の幅も広く、災害報道といっても様々な切り口があるのだと学ぶ機会にもなりました。普段は個人事業主のような記者の仕事ですが、大きな取材案件の際にはチーム力を発揮できる会社だと思います。

熊本地震 伝え続ける



左/強い揺れで大規模に崩落した阿蘇大橋付近の山の斜面(2016年4月16日午前、熊本県南阿蘇村で) 右/激しい揺れで倒壊した建物などが集まる市街地(2016年4月15日午前、熊本県益城町で)いずれも本社ヘリから撮影

記者 EDITORIAL

CAREER PATH

1年目 (1992年) 東京本社校閲部 夜勤と早出が混在する勤務に音を上げそうになる一方、小さい文字を読みまくる仕事で自慢の視力が低下。

3年目 (1994年) 東京本社地方部山形支局 いよいよ取材ができるのははりきり、挨拶回りを口実にネタのありそうな所を片っ端から訪ねて名刺を配り歩いた。

7年目 (1998年) 東京本社地方部 東京に戻って内勤生活、ストレスをためていた。空いた時間は本を読みあさり知識のインプットにいそむ。

10年目 (2001年) 東京本社編成部 紙面のレイアウトや見出し付けの仕事の傍ら、新日本語取材班に入れてもらい、休日も利用して企画取材。

11年目 (2002年) 東京本社社会部 北朝鮮拉致問題担当となり半年近くほとんど休みなし。大きな歴史の動きに立ち会えたことは深く心に刻まれた。

13年目 (2004年) 遊軍の調査報道班で「公費の無駄遣い追及キャンペーン」を展開。調査報道の面白さとやりがいを実感。

17年目 (2008年) 東京本社医療情報部 雑多なニュースに追われる厚生労働省キャブから医療専門記者へ。掘り下げた取材がしたくうずうず。

23年目 (2014年) 東京本社医療部 群馬大学病院で相次いだ手術死をスクープ。一連の特報で2015年度新聞協会賞を受賞。



高梨ゆき子 YUKIKO TAKANASHI
医療部 東京本社 1992年入社



苦しんでいるどこかのだれかに役立つ記事を。

現在の仕事内容、担当を教えてください。

医療や健康にまつわるニュース、フィーチャー記事を取材・執筆しているほかに、デスクの仕事もしています。主な担当は、外科系や臓器移植、医療安全、がん、生活習慣病などの治療です。最近では、群馬大病院の手術死問題や医療事故調査制度について中心的に取材し、ニュース記事、解説、連載企画にまとめました。

「群馬大病院の腹腔鏡手術をめぐるスクープ報道」が世の中に与えた影響をどのように感じていますか？

群馬大の問題は、当初は腹腔鏡を使った肝切除という新しい手術が適切な手続きもなく行われ、患者の死亡が相次いだという事実から始まりましたが、その後、開腹手術も含め死亡した患者が多く、医療の質そのものにも問題があったことがわかりました。この出来事が社会問題化したのをきっかけに、医療現場では改革が進んでいます。具体的には、新しい医療を導入する際の倫理手続きの整備や医療安全管理体制の強化などです。特に、高度な医療を担う特定機能病院の承認条件が厳格化され、医療安全対策の整備が必須とされたことは、大学病院を改革するうえで大きな影響力のある変化でした。医療界が医療の安全や質向上の重視に向け大きくかじを切ったと感じています。

スクープを経て、心境や環境において何か変化はありましたか？

私はこの取材を始めて間もない頃から、明確な目標を持っていました。それは、以前から感じていた医療の課題を報道を通じて改善したい、ということです。医療現場は依然、安全や倫理、患者の権利尊重といった面で課題を抱えています。群馬大で起きていたのは大変悲しい出来事ですが、深刻なだけに世に向けて強いインパクトがあり、課題の改善に向けて社会を動かす起爆剤になりうると考えました。スクープとキャンペーン報道を続け、その実現へと歩を進める後押しができたように思い、達成感を感じています。後に、取材に応じてくださった方々から「高梨さんに話して本当によかった」と言ってもらえたことは記者として大きな喜びであり、励みになりました。一連の報道を経て、取材先からの信頼も深まったように思います。

記者という仕事の面白さ、醍醐味を教えてください。

多くの人がまだ知らない情報をつかみ、取材の積み重ねで情報が点から線になり面になり立体的な全体像が見えてくる過程は好奇心をそそられるものですし、取材によってわかったことを広く伝えることで社会を動かすことができるのが、まさに記者の仕事の大きな魅力であり、やりがいだと思っています。

記者という仕事の難しさを教えてください。

一面トップのような大きな記事は強いインパクトがあり、社会に与える影響も一個人の想像以上に大きいものがあります。特に、その記事で窮地に立たされる人、記事を喜ばない人があるようなテーマの場合、こちらが正しくても非常にストレスを感じますし緊張感があります。そういう意味では苦しいことの連続ですが、その気持ちは、実は決して忘れてはいけないものだと思います。記事にされた人の痛みを常に想像できるようでなければ、フェアな報道はできないからです。それは大変難しいことでもあります。

難テーマも、わかりやすく



腹腔鏡を使った肝切除とはどのような手術かなど、専門的なこともある程度は理解していないと、わかりやすい記事は書けない。時には医師向けの専門書にも目を通す。

記者 EDITORIAL [写真記者]



リオ2016オリンピック

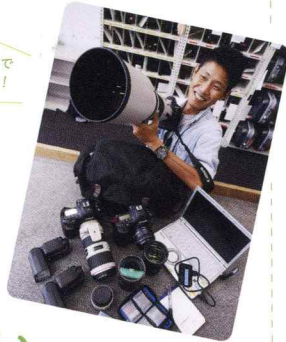


一人でも多くの人に、一つでも多くの事実を伝えたい。

CAREER PATH

- 1年目 (2007年) 東京本社写真部 夏の甲子園で真っ黒に日焼け。ハンカチ王子・早大の斎藤投手を追う日々。
- 2年目 (2008年) 東京本社社会部 秋から半年間、都民版編集室で記者修業。原稿執筆の難しさ、面白さを学ぶ。
- 3年目 (2009年) 大阪本社写真部 天神祭に阿波踊り、初めて関西の文化に触れる。串カツとお好み焼きに舌鼓。
- 6年目 (2012年) 東京本社写真部 初海外出張で米大統領選取材。慣れない左ハンドル車に右往左往。
- 現在 リオ2016オリンピックを終え、東日本大震災6年や熊本地震1年に向け被災地取材が続ける。

器材庫で超望遠レンズを装着!



体操男子団体が金メダル確定の瞬間を撮影中。体操競技担当として長期間取材してきただけに、我が事のようにうれしかった。

ココにいます!

読売新聞を選んだ一番の決め手を教えてください。

写真というメディアの持つ魅力の一つは、「より端的に、より強く」物事の側面を切り取り、伝えられる力です。国内外に多くの取材拠点を持ち、世界最大の発行部数を擁する新聞社でカメラを持つことは、切り取った事実を多くの人たちに伝達できる可能性を秘めています。「より端的に、より強く、より広く」。一人でも多くの人に、一つでも多くの事実を伝えたい。読売新聞でなら、それができると思いました。

新人時代のエピソードを教えてください。

写真部に配属されたその日に、愛知県で立てこもり事件が発生しました。騒然とする職場を目の当たりにし、新聞社に入社したのだと強く感じました。料理やインタビュー、事件事故や季節のスケッチ、写真部の仕事はその日の朝に初めて決まります。経験したことのない多岐にわたる写真取材に四苦八苦しながら、必死で走り回りました。デスク、先輩から指導を受けながら失敗と反省を繰り返し、自分のふがいなさに眠れない夜もありました。重い機材を背負って夜通し登った富士登山や、土ぼこりにまみれて球児の汗と涙を追い続けた高校野球など、印象深い取材ばかりでした。思い返すとあっという間の新人時代で

ですが、この1年で学んだことは、その後の写真記者生活において大きな糧となっています。

現在の仕事内容、担当を教えてください。

2016年夏までの数年間、リオ2016オリンピック担当として、アジア大会や体操世界選手権など、主にスポーツ大会を取材していました。また、オリンピック1年前のリオの様子を伝えたり、天皇后両陛下のバラオご訪問同行取材など多くの海外出張を経験。熊本地震をはじめとした災害や事件事故取材も行ってきました。現在は特に担当を持っていません。早番、遅番、宿直などのシフト勤務の中で、事件事故や芸能人のインタビュー、記者会見や羽田空港でのヘリコプター当番など様々な取材を行っています。加えて、これまで5年以上撮り続けている東日本大震災関連の写真グラフ取材のため、石巻をはじめとした被災地への出張取材に力を入れています。

これまでで一番印象に残った取材、記事はなんですか?

2011年に起きた東日本大震災です。入社4年目、大阪本社写真部に出向中でした。当日は非番でしたが、同僚カメラマン2人と翌未明に車で宮城へ入り、10日間取材を続けました。「ここは地獄だよ」。同じ言葉を何度も耳にしました。囁りやまなサイレント、へ

リコプターの旋回音。そこかしこに浮かぶ遺体の傍らを幼子を背負った父親や祖母の手を引く少年が歩き、妻の亡きがらに優しくささやき、涙を流して口づける男性もいました。目の前の光景に尻込みする余裕もなく、ただシャッターを重ねました。時折、無力感にも襲われました。自分に何ができるのか、何度問うても答えは出ません。それでも、この震災で出会い、今もお世話になっている人たちがいます。地震から68時間ぶりに救出された赤ちゃん、津波の犠牲になった娘の遺影に語りかける母親。今を生きている彼らのために写真で何ができるのか、これからも問い続けていきます。

これが写真記者の標準装備だ



プロ用一眼レフ2台とワイドから望遠までの交換レンズ、写真送信用のノートパソコンなどが支給される。超望遠など特殊レンズは、共用品を使用する。

読売新聞はJOCオフィシャル新聞パートナーです。

記者 EDITORIAL

CAREER PATH

- 1年目 (2005年) 東京本社地方部水戸支局 警察担当。忙しい中でも同業他社の同期とよく飲み、お互い励まし合った。
- 3年目 (2007年) 東京本社地方部古河通信部 当時、女性記者の通信部勤務はまだ珍しかった。
- 5年目 (2009年) 東京本社地方部水戸支局 県政担当。「国内最後の民間空港」と言われた茨城空港の開港前後を見守る。
- 7年目 (2011年) 東京本社地方部内信課 東日本大震災の被災地を度々訪れ、地元の復興に取り組む学生らを取材。
- 8年目 (2012年) 東京本社英字新聞部 英字紙のレイアウトと読売新聞の英訳など初めての経験ばかりで毎日が勉強。
- 10年目 (2014年) 第1子出産。育休中は、地元で保育園が見つかるかどうか不安だった。
- 現在 東京本社教育部 育休明け直後に、希望していた教育部への異動を果たす。



社内の図書室で資料を閲覧!

次の連載のネタになる情報を収集。関係者などに問い合わせで下調べをし、企画を練ります。



子どもの教育や将来を考える上で有益な情報を。

新聞記者を目指したきっかけを教えてください。

仕事を選ぶ上で大事にしたことは、「わくわくできること」と「海外で仕事をするチャンスがあること」の2点でした。就職活動中に様々な業界を見ましたが、取材を通じて色々な人の生き様や考えに触れることができる新聞記者という仕事に大きな魅力を感じました。同じ仕事をする日が二度となく、退屈することがないと思ったからです。また、学生時代に学校の先生や現役の新聞記者に作文を褒められた思い出があり、自分には書くことが向いているんだと「勘違い」したことも仕事選びに影響しているかもしれません。新卒の就職活動では残念ながら新聞社とご縁がなく、海外でまったく別の仕事をしていましたが、「新聞記者になる」という思いを捨てられず、帰国後に再挑戦しました。

現在の仕事内容、担当を教えてください。

毎週火曜日の就活面「就活ON!」と、教育面の長期連載「教育ルネサンス」が主な担当です。就活面の取材相手は、企業の人事担当者や大学のキャリアセンター、大学生など。最新の就職活動の動向を探ったり、大学生の就職活動の参考になるように企業紹介をしたりしています。一方、教育ルネサンスでは、そのとき話題となっている教育テーマについて、



金来ひろみ HIROMI KANEKITA 教育部 東京本社 2005年入社

複数の記者と協力して連載を作り上げます。全国の小中高校、大学、教育に携わるNPO法人などを訪れて取材します。これまでに英語教育や部活動、家庭の経済状況を背景とした教育格差の問題などを取り上げてきました。教育部に異動する前から途上国の教育開発に興味を持っていたのですが、日本の子どもの貧困が話題になり、すぐそこに貧困があることに大きな衝撃を受けたのを覚えています。「教育は国家百年の計」とよく言われますが、まさに未来への投資です。「子どもたちにどんな教育を受けさせたいか」「学校はどんな場所であってほしいか」、そんな視点を持って取材したいです。教育というテーマの奥深さに仕事のやりがいを感じます。

記者という仕事の難しさを教えてください。

取材して記事化を目前にしながら、他社に先に書かれてしまい、後追いになってしまったことがあります。そんな時は、「もっと突っ込んで質問すればよかった」「もう1回足を運べばよかった」と、後悔の念に駆られます。また、情報提供者は問題の全貌を教えてくれるわけではありません。各方面に取材を重ねて得た断片的な情報から問題の全体像を把握する難しさもあります。

記者という仕事と育児の両立に関して、感じていることを教えてください。

子どもが小さいため、急な体調不良など想定外の出来事が度々起きます。仕事を続けられるのも、職場や家族の理解とサポートがあってこそで、本当に感謝しています。子どもが小さいうちはどうしても働ける時間に制限があります。子どもとの時間を大切にしつつ、限られた時間の中で、「どうやったら職場に貢献できるか」「自分のやりたい取材ができるか」試行錯誤しながらやっていきたいと思っています。社内には、子どもを育てながらも精力的に仕事に取り組む先輩記者が多くいます。そういう先輩記者の存在は励みになります。

学校で使用されている教科書



文部科学省が教科書検定の結果を公表する時期は、多くの部員が教科書会社などへの取材に当たり、新しい教科書の特徴を調べます。

記者 EDITORIAL



水野祥 SYO MIZUNO
留学・研修中 東京本社 2006年入社

延世大学付属の韓国語学
堂に通っています。クラス
メートは、韓国の大学進学
希望者や韓国ミュージック
「Kポップ」がきっかけで、
韓国語を学びに来た若者
など様々です。みんな私
より若いです。



授業の合間に、
クラスメートとも韓国語で話
します。この日は、韓国語を学
ぶ理由について話しました。



取材現場を離れ、韓国へ留学中。

新人時代のエピソードを教えてください。

埼玉県内版のトップ記事を初めて書いたときのことです。同県内でバラの花が有名な公園で、公園に植えられているバラの大半が難病にかかっていることを記事にしました。記事自体、先輩記者に何度も手直しされて苦労をかけたし、当時の取材が強く記憶に残っています。発端は、公園の来場者に、バラの咲き具合を聞いたところ、大半の人が「年々悪くなっている」と答えたことでした。何かあるのではと疑って、公園を出入りする業者を探して聞いてみると、「園内のバラの大半が、難病にかかっている」と証言しました。この問題を紙面で掲載したところ、自治体でも問題視され、土壌の入れ替えなど整備事業が行われました。たとえ入社して数ヶ月の新人であっても、埋もれた問題をきちんと記事にできれば、地域をより良い方向に変えられることを実感しました。

会社の留学・研修制度に応募した理由、また中でも韓国への留学を希望した理由を教えてください。

警視庁担当だった2014年、日本企業の研究データが、韓国の同業他社へ不正流出した事件の取材に関わったのがきっかけです。日韓両国の間で起こる問題を深く読み解くためには、日本だけでなく、韓国内の事情も、もっ

と取材する必要があると思いました。日韓関係は、政治や経済などの分野でも、常に世間の注目を集めていますし、まずは、この国の言葉を覚えられればと思い、留学を希望しました。

現在、どのようなことを学び、どのような一日を過ごしているのでしょうか？

大学の語学クラスに毎日通い、別の学校の補習授業を受けるなど、朝から晩まで韓国語にどっぷりつかった生活を送っています。毎日の単語テストに加え、3か月に1度ずつある中間、期末テストの勉強、学生同士による弁論大会の準備などで、忙しいです。10年ぶりの学生生活を送っていますが、大学生の頃と比べると、体力や記憶力の衰えを少々感じるところはあります。一方で、これまでの記者生活で、原稿の締め切りなど、時間との戦いが多かった分、時間の使い方がうまくなったと思います。無駄な時間を極力過ごさないように心がけており、充実した留学生活を送っています。

記者という仕事の面白さ、醍醐味を教えてください。

当然ではありますが、社会で起こる出来事や、自分がどのタイミングでどんな情報を得るのかなどは、事前に見通せません。直前には、まったく想像すらできなかったことが突然起こり、ばたばたと取材を始めることがよくあります。結果的に、特ダネになれば、疲れも吹

- CAREER PATH**
- 1年目 (2006年) 東京本社地方部さいたま支局 先輩に怒られ、仕事を覚える毎日。怒られた分だけ成長できたのでは?!
 - 4年目 (2009年) 東京本社地方部川越支局 地域の話題を追って奔走。記事が載ると、取材先にも喜ばれ、うれしき倍増。
 - 5年目 (2010年) 東京本社地方部さいたま支局 取材先と朝まで飲んだ当日、他紙に抜かれる。何時も気を抜いては駄目と猛省。
 - 6年目 (2011年) 東京本社社会部 社会部に配属。都内の事件、事故の多さに圧倒されながら、現場へ向かう日々。
 - 8年目 (2013年) 警視庁担当に。贈収賄や詐欺事件などを追ひ、夜打ち朝駆けを繰り返す。
 - 現在 韓国・ソウルに留学。韓国語を自在に操る特派員を目指し、毎日、勉学に励む。

き飛び、喜びもひとしおです。反対に、他社に抜かれ、とことん気分が落ち込むこともあります。これほど刺激的な仕事は、なかなかないと思います。もう一つは、常に正義感を忘れることなく、仕事ができる点でしょうか。記事を通して、社会問題や弱者の存在をクローズアップし、社会の仕組みや法制度そのものを変えられることも時にはあります。

読売新聞の持つ力、可能性についての考えをお聞かせください。

読売新聞の最大の強みは、世界一の発行部数だと思います。記事の影響力が大きいため、実際の取材現場にいと、読者だけでなく、取材先や同業他社なども、読売新聞に次にどんな記事が載るのか注目していることに気がかされます。



新村(シンチョン)の街角にて。

自宅に戻ったら、A4サイズのノートを使って、その日に習った文章や単語を口に出しながら何度も書きます。語学の勉強は、地道な作業の繰り返しで上達への近道だと信じています。

新聞記者図鑑

JOURNALIST INTRODUCTION



【取材記者】

様々な人に会い、現場を訪ねて、事実を掘り起こすのが記者の仕事です。新人時代は、地方支局での警察や行政、地域の話題やスポーツなど、様々な分野を取材する中でニュースを見極める目を養います。5～6年目に本社に戻り、政治、経済、社会、国際など様々な分野の専門記者へと成長していきます。常に読者の視点に立ち、「今、人々が求めている情報は」「世の中をよくするために、どんな問題提起をすれば良いだろう」といった意識が必要とされます。



【編成記者】

ニュースの価値判断をし、見出しを付け、レイアウトをする記者。新聞とネットの違いは、ニュースの格付けをしているか、いないかといえます。編成記者は、新聞のどの面に載せるか、見出しの大きさをどうするかを決めることで、ニュースの格付けをしています。取材記者が、ネタを取ってくる漁師だとすれば、編成記者は、ニュースという素材の料理人といってもいいでしょう。新鮮なネタなら、印刷の締め切り時間が刻々と迫る中、素早く腕を振りますし、ネタが少し古ければ、レイアウトや見出しといったスパイスで適度に味付けをして、読者にお届けすることもあります。そんな包丁さばきが、編成記者の醍醐味です。



【写真記者】

災害や事件・事故の現場取材から政治、経済、スポーツ、芸能人のインタビュー、料理の写真まで、新聞に掲載される全てのジャンルの写真を撮ります。フィールドは国境を越えて全世界に広がります。撮影のために取材をしたり、グラフ紙面などの記事を書くこともあるので、「写真記者」と呼んでいます。



【キャップ】

新聞記者には「個人プレー」の場面も多いですが、「チームプレー」も重要です。警察や行政など、一定の分野を取材するチームを現場でまとめる立場の記者は「キャップ」と呼ばれます。ベテランプレーヤーとしての役割はもちろん、取材や記事作成の取りまとめ、若手記者へのアドバイスなども担いながら、広い視野で、より深く取材する力を身につけていきます。

【デスク】

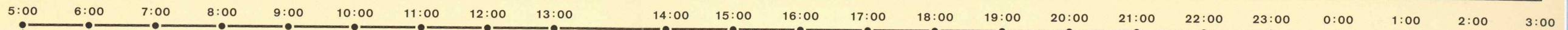
現場の記者が取材してきた原稿をチェックして、新聞社の「商品」に仕上げ、時にはより読者にわかりやすいように、書き直しや再取材の指示を出す立場がデスクです。いつも新鮮なニュースを求めて忙しく飛び回っている記者は、「本社に机がない」というケースも珍しくありません。そんな現場の記者に対して、「会社に机がある人」=デスクが語源ともいわれています。内勤ばかりの人であれば、現場のキャップがローテーションで入ったりと、働き方は様々。中には暇を見つけては自分の興味がある分野を取材する、というデスクもいます。



1 DAY SCHEDULE

社員のスケジュール大公開!

夜討ち朝駆けで情報をつかむ者、地域に密着して人々の暮らしを追う者、海外で若者に交じり語学の習得に励む者、新聞印刷の技術開発に奮闘する者—— 読売新聞はこうした濃く、熱い時を過ごす社員たちの仕事でできている。読売新聞の24時間を見てみよう。



今村知寛
記者
西日本本社 熊本支局
2013年入社

5:00 起床
自宅でも他紙も含めた朝刊をチェックしてから出勤。

6:00 原稿確認
夕刊に投稿した原稿の確認のため、支局待機。問い合わせを待つ間に、書きかけの原稿を再読。

7:00 取材先へ移動
地震で3度目の引っ越しをする牛の取材のため、阿蘇地域へ。地震の影響で通行止めの道路やトンネルも多く、迂回路を通るため移動時間が格段に延びた。

8:00 昼食
午後の取材先に移動する間に昼食。

9:00 取材
地震で断水が続く立野地区へ。牛を飼育する70歳代の男性は、牛の飲み水確保にも一苦労だ。

10:00 取材
大津町の仮設住宅で避難している人に会いに行く。日頃から顔を出すことは、どんな取材にも通じる。

11:00 原稿の確認
支局に上がり、組み上がった原稿を確認。固有名詞や年齢などに誤りがないか、記者同士で読み合わせをする。

12:00 業務終了
地震半年の節目に向けて、取材メモの作成を済ませ帰宅。

13:00 就寝



杉山正樹
記者
大阪本社 編集局 経済部
2009年入社

5:00 朝回り
迎いの車で家電大手の役員宅へ。公式発表されていない情報をつかむため、出勤するのを静かに待つ。帰りの車の中で、取材メモを作成。キャブやデスクに取材結果を連絡する。

6:00 追加取材
喫茶店で朝食。家電大手広報に電話し、朝回りで得られた情報の確認や追加取材。一般紙や経済誌に目を通す。同じテーマの記事の相違点や見出しを比較する。経済政策や金融動向なども確認。

7:00 追加取材
夕刊の企画「ヒット&ロングラン」で紹介するゲームソフト大手カプコンの広報担当者との取材の打ち合わせ。

8:00 取材先の広報担当者
取材先の広報担当者と昼食を食べながら当面の発表内容や業界の動向について意見交換することも。

9:00 大阪取引所へ
年4回ある決算発表の時期には、企業のトップが記者会見を行う。掲示板で会見場所を確認し、原稿の下準備をする。担当する任天堂の会見で新型ゲーム機や新規事業の見通しを取材。終了後、社長を囲み、会見内容の細部を詰める。

10:00 原稿執筆
原稿を執筆。内容をわかりやすくするため、業績の推移を表す棒グラフも作成する。デスクに送信し、校閲部に渡す。照会資料も送る。

11:00 夜回りへ
大阪市内に住む家電大手の役員宅に向かう。自宅前で役員宅の帰りを待ちながら、スマートフォンに送られてきた朝刊用の原稿と紙面を確認する。

12:00 業務終了
役員宅の帰りを待たないよう、自宅前で待機。「早く帰ってきてくれ」と願う。夏場は蚊、冬場は寒さとの戦いだ。帰ってきた役員宅に声をかけ、質問をぶつける。終了後、キャブに取材内容を報告し、帰りの車の中で取材メモを作成する。

13:00 帰宅
自宅夕食、風呂。



金来ひろみ
記者
東京本社 編集局 教育部
2005年入社

5:00 取材
教育面の長期連載「教育ルネサンス」の取材で、子どもの貧困対策について、文部科学省の担当課専門官から話を聞く。

6:00 昼食
次の取材先の近所で昼食。出かけた先でおいしいと評判のお店を見つけ昼食をとるのがささやかな楽しみ。

7:00 取材
就活面の連載「人事の眼」の取材。機械メーカーの人事担当者から、求める人材像など新卒の採用方針について話を聞く。

8:00 本社で原稿書き
記憶が新しいうちに取材したことを原稿にまとめる。育児短時間勤務のため何よりも早く帰るのが肝心。取材のアポ取りやゲラの確認も行う。

9:00 打ち合わせ
「教育ルネサンス」を担当する同僚記者と、連載の方向性や取材の進捗状況について話し合い、情報を共有する。

10:00 退社
子どもを迎えに保育園へ急ぐ。

11:00 帰宅
子どもに夕食を食べさせ、入浴させ、本を読み聞かせる。寝かしつけるまで毎日10分。



水野祥
記者
東京本社 編集局 社会部
2006年入社

5:00 起床
起床後、すぐにシャワーを浴び、眠気をさます。毎日約50個出題される単語テストに備え、単語帳を見ながら、徒歩で、近くのバス停へ。

6:00 語学堂へ
授業を受ける語学堂に到着。近くのコンビニで買ったサンドイッチを教室で食べながら、前日に習った文法などの復習を行う。

7:00 授業開始
クラスメートの国語は、ベトナム、中国、イタリヤ、ドミニカなど様々。初級とは言え、全て韓国語の授業について行くのは大変。

8:00 昼食
授業を終え、クラス仲間と学内の学生食堂へ。韓国名物のキムチチゲを食べながら、韓国語でコミュニケーション。会話練習の良い機会。

9:00 弁論大会準備
語学堂に戻り、近日中に行われる弁論大会の準備。各生徒が、韓国の文化や芸術などについて様々なテーマで発表する。かなり緊張しそう。

10:00 大学図書館で宿題
毎日出る宿題は、その日覚えた表現を使っている自由作文。辞書を使い、悪戦苦闘しながら書く。先生に赤字でびっしり直されることも少なくない。

11:00 補習授業
近くの語学学校で、補習授業を受け、会話力の向上を目指す。先生の口から出ない単語をひたすらノートに書き留める。

12:00 帰宅
電車を乗り継いで、ようやく帰宅。夕食の準備に取りかかる。本日のメニューは、テンジャンチゲの素と切った野菜で、簡単な鍋料理。

13:00 自宅学習
授業中に辞書を引くことが禁止されており、新しい単語を事前に調べるなど、翌日の授業の予習。わからないところは、翌日の授業で先生に質問。

14:00 就寝
語学の上達を夢見て、就寝。いつか韓国語の夢を見たとは思いますが、まだまだ、そんな段階までは来ておらず、勉強を続けるしかない。



大西宏治
事業
東京本社 事業局 スポーツ事業部
2011年入社

5:00 入社
会社に出社して最初に行うのは、メールやスポーツ紙、イベント情報などをくまなくチェックします。

6:00 打ち合わせ
巨人の次戦以降に向けた打ち合わせを行います。観客に喜んでもらえるような企画はシーズン途中でも検討して実現させることがあります。

7:00 東京ドームへ移動
巨人戦ナイター運営のため東京ドームへ。関係各所に挨拶。

8:00 昼食
東京ドーム近辺でテイクアウトの弁当を購入。東京ドーム内の事務室でエネルギーを補給。

9:00 進行スケジュールを確認
開場から試合終了までの場内演出やファンサービスの内容を関係各所と確認。

10:00 東京ドーム開場
いつもたくさんのお客さまにご来場いただきありがとうございます。

11:00 試合前イベントの進行
18時の試合開始に合わせて、試合前にはグラウンド上でマスコットによるアトラクションや国歌演奏などのタイムキープをします。

12:00 試合開始
試合開始以降もマスコットガールのダンスや着ぐるみレースなどのアトラクションが行われるので、試合進行を妨げないように管理します。

13:00 試合展開をチェック
スタンド、コンコースに足を運んで試合展開をチェックしています。ほとんどないですがトラブルがあった場合は対応も。

14:00 試合終了
観客が退場すると、ようやく安堵に浸れます。

15:00 メールなどのチェック
試合中は試合運営に集中しているのでパソコンはほとんど触りません。溜まったメールやパソコン業務をこなします。

16:00 帰宅
スポーツニュースを中心にチェック。



坂本剛志
技術総合職
東京本社 制作局 技術二部
1999年入社

5:00 通勤
小学生の娘と学校前で別れるまでの10分も貴重な会話の時間。電車で朝刊に目を通す。ニュースも気になるが印刷品質も気になる。

6:00 社内定例会議
週一回の社内定例会議。担当している業務の進捗状況や今後の予定を報告。進め方について部長からアドバイスをもらう。

7:00 昼食
同僚と本社の食堂で昼食。カロリー表示が気になりつつも、好物の手作りメンチかつ定食を選択。健康診断の結果を聞き、次のテスト方法を確認する。

8:00 製紙メーカーと打ち合わせ
印刷用紙のテスト結果報告を受ける。結果が良好でひと安心。取り急ぎ電話で印刷工場に結果を伝え、次回のテスト方法を確認する。

9:00 印刷テスト
印刷工場に提示する印刷用紙のテストを作成。A4サイズ1枚で見やすさや性能、コストなどを追求するが、なかなか難しい。

10:00 設備メーカー選定会議
印刷工場改修にあたり、設備メーカーを決める会議。事前に決めた設計コンセプトや性能、コストなどを比較しながら選定を進める。

11:00 ちょっと休憩
リフレッシュコーナーで後輩とコーヒーを飲みながら一息。夕焼けをめでつつ、雑談がつついっつい長くなることも...

12:00 3本会議
紙面品評会に向け、テレビ会議で大日本、西部本社の担当者の顔を見ながら打ち合わせ。テレビ越しでも顔が見えるのはいい。

13:00 資料導入プランニング
完全無処理CTP版を新たに導入する工場への説明資料とテストデータを作成し、関係者にメールで送付。事前の根回しが重要だ。

14:00 退社
納得のいく資料に仕上げるため残業。会社が駅に直結しているのはありがたい。明日は印刷工場へ打ち合わせをしてから会社へ。

広告 ADVERTISING



松尾大輝 DAIKI MATSUO
広告第一部 東京本社 2009年入社

CAREER PATH

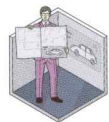
- 1年目 (2009年) 東京本社広告編集部 支社版や日曜版の入稿業務を担当。日々扱う原稿の多さに圧倒される。
- 2年目 (2010年) 東京本社メディア推進部(現:メディアデザイン部) 営業デビュー。ネット広告の特徴を学び、新聞広告との連動を模索する。
- 5年目 (2013年) 東京本社ビジネス開発部 新規広告企画の立案に携わる。先輩方の豊富なアイデアに刺激を受ける。
- 6年目 (2014年) 東京本社広告第一部 電機メーカーや商社などを担当。忙しくても丁寧な対応を心掛ける。

自分が手がけた広告がたくさん読者に届くことが仕事の醍醐味ですが、一方で、間違った情報が掲載されないように気を付けなければなりません。



原稿が校了となり笑顔がこぼれる。

ロングトレイル企画の紙面雑誌に近いデザインにし、読者の目にとまるよう工夫しました。



新規企画の成功に流したうれし涙。

新人時代のエピソードを教えてください。

初めて営業に出たときは、ほとんどしゃべりませんでした。そのため、先輩と一緒に営業に出かけたときは、先輩の営業トークを盗むことばかりを考えていたように思います。今でも、あのときこういう説明をすればもっとわかりやすかったな、このデータと一緒に提示すればもしかしたら提案が通ったかもと、帰りの電車の中で反省する日々です。

現在の仕事内容、担当業務を教えてください。

読売新聞に掲載する広告を集めてくるのが基本的な仕事です。広告主のもとへ企画提案に行ったり、広告会社に通って広告主の動向を取材したりします。テレビからインターネットまであらゆる媒体の中から新聞を、そして数ある新聞の中から読売新聞を選んでもらうために、日々駆けまわっています。広告局では業界ごとに担当が分けられており、私は電機メーカー、精密機器メーカー、商社などの業界を担当しています。いわゆるBtoB企業はあまり多くはありません。そのため、どのような提案であれば広告主に読売新聞を使ってもらえるか、どのような企画であれば読者の目にとまるか、常に考えるようにしています。

これまでで一番印象に残った仕事、出来事はなんですか？

局内で新規企画を立案するプロジェクトに参加したときに、「ロングトレイル」を紹介する企画を実施しました。一部で流行し始めているロングトレイルの魅力を紙面を通じて発信すると同時に、グループの読売旅行と連携して体験ツアーを組み、その募集・催行も行うというものでした。もちろん、この企画に魅力を感じて協賛してくれる広告主(それも新規!)が見つかったこともうれしかったのですが、何より自分が仕掛けた企画が紙面となり、たくさん読者から反響があったことが本当によろしかったんです。紙面が掲載されるまでは、ツアーの申込が全然入らなかつたらどうしようかと思っていましたが、掲載日当日のお昼頃に読売旅行の担当者から「受付開始早々電話が鳴りやまず、すぐに定員になった。キャンセル待ちも多すぎるので、もう断り始めている。ようやく落ち着いて松尾さんに連絡できた。」と電話が入りました。このときはうれしくて涙が出ました。

仕事の難しさを教えてください。

広告主や広告会社への提案となると一方的に話してしまいがちですが、提案の場面では実は聞くことの方が重要であったりします。広告主の課題はどこにあるのか、どのような企画が刺さるのか、タイミングはいつなのか、そういった

情報を入手できれば次の提案につながります。その点では、営業も取材することが大切です。

仕事をする上で大切にしている思いや心がけがありましたら教えてください。

他紙に出稿量が大幅に差をつけられている化学メーカーを担当しているときの話です。これまで様々な企画を提案してきましたが、中々実現しませんでした。そんなとき、これまでの自分は熱意を持って提案できていたのだろうかと思ふと疑問に感じたことがありました。そこで、次に提案に伺った際は企画の説明は早々に切り上げ、「読売新聞の読者にも、もっと貴社のことを知ってもらいたいです!」とひたすら熱意をぶつけることにしました。その結果、タイミングがよかったこともあり、なんと出稿を獲得することができました。もちろん提案は中身が大切ですが、熱意をもって広告主と向き合うことが何よりも大切だと感じました。

最も基本的な営業ツール媒体資料。

媒体資料には、部数データや各記事面の紹介、掲載事例などが載っています。こうしたツールを用いて読売新聞の魅力を伝えます。



販売戦略 CIRCULATION

CAREER PATH

- 1年目 (2006年) 西部本社販売局付 3か月間の販売店研修。将来打ち合わせる立場になるべく現場の苦楽を学ぶ。
- 2年目 (2007年) 西部本社販売第一部 福岡・筑豊で先輩担当社員の助手として外勤へ。担当社員になる為日夜勉強。
- 3年目 (2008年) 熊本北部で晴れて担当社員に!若さを武器に高普及率の地元紙と真向勝負!
- 6年目 (2011年) 西部本社販売第二部 福岡東部担当。地方とは異なる都市圏の難しさや企画立案力の重要性を学ぶ。
- 8年目 (2013年) 鹿児島担当。TV局などと打ち合わせをして、読売の魅力発信に奔走。成功後の焼酎は格別。
- 10年目 (2015年) 西部本社販売第一部 北九州担当。全国紙が競り合う激戦区で日々奮闘。気持ちはまだ若手(笑)。



下野景士 KEISHI SHIMONO
販売第一部 西部本社 2006年入社

ディズニー・キャラクター等の読売独自の「武器」を、どの様に活用して部数アップを図るのか。女性スタッフの意見も参考に、新たな増紙戦略を検討。この提案を販売店に提示し、市場を反応させられるか胸を高鳴らせる。



裁量が大きく、自分で未来を描けるのが魅力。

読売新聞を選んだ決め手を教えてください。

学生時代はインターハイを目指し、バドミントンに熱中。あと一勝で夢は破れたが、その時に同じ夢を追いかけたメンバーが一番の親友になっていると就職活動時に気が付いた。「人と同じ夢に向かって突き進む仕事したい」と思い、様々な業種を調べる中で「新聞社・販売担当社員」を知る。日々、新聞を読者の元に届ける販売網は「人無しでは成立しない。「軒下でも多くの家庭に読売新聞を」という気持ちや、販売網強化を命題に、同じ思いで経営する販売店と新聞社の架け橋。苦楽を共に、同じベクトルに進む仕事に「これだ!」と感じた。その中でも、なぜ読売を選んだのかと問われるなら「やるのであれば一番でかいフィールドでやりたかった」の一言に尽きる。

現在の仕事内容、担当業務を教えてください。

担当エリア販売店訪問が一番の仕事。前月までの業務検証と今後の展開の指示、販売戦略提案、経営状況や他紙状況、スタッフ体制の確認等打ち合わせ内容は多岐にわたる。販売店それぞれの強みを最大限に引き出し、弱みがあれば一緒に悩み、解決方法を提示。時には酒を酌み交わし熱く語り合う事も。また、系列TV局や読売旅行等の関連会社や地方支局長と打ち合わせ、イベント等でのPR策を企

画・提案し、グループ力を最大化し読売の魅力発信を行うのも重要な仕事。担当エリアでジャイアンツ公式戦が開催される際は増紙戦術・PR方法等自ら立案し指揮を執る。

仕事の面白さ、醍醐味を教えてください。

正担当初任地の熊本北部で、阿蘇山間部の販売店主が辞める事となった。初めての販売店引継。読者に迷惑はかけられない。後任が見つかるまで自ら配達する事を決断。販売店主に同行し読者宅と新聞銘柄、順路を確認。何度も復習し、ホテルに泊まり込み、翌日より朝は配達、日中はエリアの商店を中心に「読売新聞販売店の経営をする方を探してます」と名刺を配りまくった。続けること3日、携帯に着信。前日伺った理髪店のお客様が興味を示し、電話をくれた。即面談、事業内容を伝えると即断で「やる!」と言ってくれた。涙が出そうなほどうれしかった。もちろん、新聞販売は未経験。自ら配達を教え、毎日の様に電話連絡。足しげく訪問し、打ち合わせを重ねた。その後、販売店主の努力で読者も増えた。担当は離れたが、今もその販売店主は活躍中。新聞販売は正に「人」人との出会いが最高の醍醐味。

仕事をする上で大切にしている思いや心がけがありましたら教えてください。

「読売」という字は「言(新聞)を「売」って



提案した業務で良い結果が出て思わず笑顔に!

駅までダッシュ! 気持ちは若手!!

読売新聞の更なる普及に向け奮闘する販売店主やスタッフの激励、新たな販売戦略提案の為、担当エリア販売店へ向け出発。業務状況が順調か、販売店主の顔を思い浮かべながら身が引き締まる瞬間。

事業 CULTURE & SPORTS PROJECTS



大西宏治 KOJI ONISHI
スポーツ事業部 東京本社 2011年入社

CAREER PATH
1年目 東京本社事業開発部 数十万人規模の展覧会から学生対象のコンクールまで幅広くイベントを担当。
4年目 東京本社スポーツ事業部 巨人戦興行を担当。野球観戦の魅力を感じてもらおうと邁進。



プロ野球のシーズン中に通う頻度が高い東京ドーム。4万5千人の興奮と熱気があふれる球場に向かうと、背筋がピンとします。

最高のエンターテイメント 届けます!



エンターテイメントの最前線に立てる醍醐味。

新人時代のエピソードを教えてください。

新入社員時代、参加者を集めて全国各地の水辺を歩くイベント「みずウオーク」を担当していました。真夏の炎天下に20キロコースを歩いて下見した時の汗と達成感は忘れられません(翌日の出勤は、脚が筋肉痛で階段がつかったことを今も覚えてます)。

現在の仕事内容、担当業務を教えてください。

スポーツ事業部で巨人戦の興行を担当しています。プロ野球の試合の運営には、スポンサー探しなどの営業活動やチケット販売の他、私が現在担当している、観戦を楽しんでいただくための場内演出やファンサービスの企画を考えることなど、多くの仕事に関わってきます。プロ選手のプレーを間近に観る臨場感と興奮をどのように体感してもらえば、わざわざ球場まで足を運んでくれたお客様に満足してもらえるのか。そんなことを日々考えています。

これまでで一番印象に残った仕事、出来事はなんですか?

読売新聞が60年以上開催している、中高生の科学コンクール「日本学生科学賞」を担当していた時の出来事です。参加者の中から優秀な生徒を毎年、アメリカで開催される科学

コンクールの世界大会に派遣しているのですが、私が現地に連れて行った生徒が、日本人初の部門最優秀賞受賞という快挙を成し遂げたのです。歴史的瞬間に立ち会えた感動に浸りながら、日本の将来を担う若者にチャンスを提供できたことを誇りに感じました。

仕事の面白さ、醍醐味を教えてください。

エンターテイメントの最前線に立てることが、事業部の醍醐味だと感じています。巨人戦では毎試合4万数千人の来場者にお越しいただいています。手がけたイベントがニュースとして話題になったり、SNSで拡散されたりするのは素直にうれしいです。数字や会場の雰囲気から、お客様の反応を感じられるからこそ、次はもっと満足してもらえるようにと向上心も沸きますし、それが仕事に対するモチベーションにつながっています。

仕事の難しさを教えてください。

観る人の心を揺さぶるエンターテイメントを提供するためには、常にアンテナを張って情報を拾い上げていかなければなりません。時には自分が良いと感じたものでも、周囲の評価はいまひとつであることもあります。日ごろから、ジャンルにとらわれず、様々なイベントに足を運んで、センスを磨き続ける努力も必要だと思います。

仕事をする上で大切にしている思いや心がけがありましたら教えてください。

「自信家である」と、「心配性である」と、両方の考えを持つように心がけています。任された仕事は、自信を持ってどこまで取り掛かります。その反面、「本当にこれで良いのか?」「他の方法はないのか?」など、冷静になって一歩下がるような、心配性な考えを持つことも、いい仕事をするには同じくらい大切なことだと思っています。

読売新聞の持つ力、可能性についての考えをお聞かせください。

ひとつのイベントを作るにあたり、民間企業や役所など、多種多様な団体とお付き合いし、調整しなければならぬ場面がやってきます。その際、「読売新聞」という長年の実績がある報道機関が主催・運営するイベントだからこそ、様々な関係者の方とお会いできたり、あらゆる事業に広がっていったりすることを日頃から実感しています。読売新聞が持つ世間からの「信頼」という武器は年月を経るにつれさらに重みを増してくることでしょうし、そのためにも読者の皆様の信頼を裏切らない報道機関であり続ける必要があると考えています。

経営管理 ADMINISTRATION & FINANCE



経理業務に就いて以来、愛用している電卓。会議にも出張にも肌身離さず連れていく、私の相方です。

CAREER PATH
1年目 大阪本社人事部 労務を担当。新聞社の勤務形態や手当の多様性に驚く。
3年目 採用担当。真剣に将来に向き合う学生さんに接し、身が引き締まる。
5年目 社会保険担当。厚生年金、健康保険など、複雑な制度や手続に悪戦苦闘。
6年目 大阪本社経理部 衝撃の経理部への異動。このとき、私は簿記の「ば」の字も知らなかった。
7年目 東日本大震災発生。苦心して作った予算の組み直しを余儀なくされた。
8年目 事業部の監査担当に。好きな展覧会の運営に間接的に関わることができた。
現在 総務経理局担当。退職金制度や会社法など、日々勉強中。



山岡仁 MEGUMI YAMAOKA
経理部 大阪本社 2005年入社

日々チェックする伝票が、取引先への支払いデータや、最終的に会社の業績を示す数字になるため、気が抜けません。



周囲を納得させる知識と判断が大事。

新人時代のエピソードを教えてください。

就職イベントなどで何となく感じてはいたのですが、ざっくばらんで自由な雰囲気には驚きました。凹んだ時、飲み連れに連れていってくれる父、仕事がうまくいかず会議室の影でシクシク泣いていたら会社中を探し回ってくれていた母、仕事の相談も愚痴も聞いてくれる兄、仕事が行き詰ると必ず、今何がつらい?と声を掛けてくれる姉。そんな温かい家族のような先輩、上司に支えてもらいました。

現在の仕事内容、担当業務を教えてください。

社内各部門の監査、会計業務を行うチームで仕事をしています。収入や経費、社員の給与などの人件費、退職金等、伝票が正しく起票されているかチェックします。月1回の「締め日」には、1か月間の伝票データを集計して前年度の実績や今年度の予算と比較し、増減要因を分析します。それをもとに今後の情勢を予測し、上層部に報告するための資料作成などを行います。

これまでで一番印象に残った仕事、出来事はなんですか?

2014年4月、消費税が8%に上がったとき、消費税担当でした。消費税担当は、課税、

非課税や税額などが正しく処理されているか日々チェックし、最終的に1年間の金額を取りまとめ納税額を計算し、税務署に申告も残っておらず、何から始めてよいかかわからず途方に暮れました。

周囲の助けも借りながら、この4月の出張で使われている新幹線チケットは3月中旬に購入しているから5%、3月から始まったこの展覧会のチケット代は4月に販売しているものだから8%、など一つひとつ税率を検討していきました。締切日に申告書が完成したとき、上司とガッツポーズをしました。先が見えないときも、積み重ねた苦労や努力は報われると実感しました。

仕事の面白さ、醍醐味を教えてください。

経営管理の仕事は、地道で、表舞台に立つことはありません。しかし、編集、広告、販売、制作、事業、会社の全ての部門で働いている人や業務にかかわることができます。たとえば人事部なら現場から上がってきた勤務報告を通じて、今の職場ではどのようなことが起こっているのか、この社員は少しフォローが必要ではないかなど、気を配り想像力を働かせながら、社として、部署として、個人として何が出来るか考えます。経理部なら、ときに社の方針を決める重要な資料を作成したり、経営にインパクトを与えることの責任を感じられるのも醍醐味です。

仕事の難しさを教えてください。

社内の規定が遵守されているか監視するのも経営管理の大切な役割ですが、容易ではありません。例えば、認められない経費があると、社内の反発を招くこともあります。それでも、ルールから外れないよう規律を整えることが、会社の強い基盤となると思います。周囲を納得させる知識と判断力を身につけ、公平性を保つバランスを持ち続けることが求められます。

仕事をする上で大切にしている思いや心がけがありましたら教えてください。

感謝すること。これからさらに経験を重ねて、色々なことを自分で解決できるようになったとしても、ここに至るには、たくさんの人たちの支えがあったのだということを忘れないようにしていきたいです。また逆に、自分も周りの助けになる存在でありたいです。

内勤の業務は、人とのコミュニケーションが仕事の8割と言ってもいいほど。親しい先輩や後輩と、リラックスした雰囲気の中でおしゃべりする時間も大切にしています。



技術総合職 PRODUCTION



坂本剛志 TSUYOSHI SAKAMOTO
技術二部 東京本社 1999年入社

CAREER PATH

- 1年目 (1999年) 東京本社新聞システム部 取材支援を担当。海底噴火発生で沼津から漁船で三宅島へ。船酔いに苦しむ。
- 3年目 (2001年) 関連会社へ転出 記者用パソコンを更新。アプリ開発メーカーと使い勝手の良さを追求。
- 4年目 (2002年) 東京本社技術二部 2011年の東日本大震災で一部印刷工場が被災。会社が丸ごとになって新聞を届け続ける。
- 現在 新聞用完全無処理CTPプレートで2015年度新聞協会賞技術部門受賞。大反響におどろく。



テスト手順をオペレーターに説明。

完全無処理CTPプレートの印刷テストに立ち会う。実用化していても条件が変われば念入りにテストを行う。

テストとはいえ、ビリッとした緊張感が走る。



印刷資材や紙面品質の向上を目指して奮闘中。

現在の仕事内容、担当業務を教えてください。

紙、インキ、CTP (Computer To Plate) 版などの印刷資材を担当しており、印刷された新聞がより良くなるように奔走しています。いずれの資材も複数のメーカーのものを使用していますが、印刷工場に協力してもらってテストし、実用化の可否を見極めます。問題があればメーカーに改良を申し入れます。また、今まではなかった新しいものをメーカーや印刷工場と協力して開発することもあるので、信頼関係を築くのが非常に重要です。その他、紙面の印刷品質向上を目指すプロジェクトも担当しているのですが、多くの印刷工場を抱えているが故に、印刷品質を均一に保つことの難しさや、それに挑戦するやりがいを感じています。

新聞協会賞技術部門を受賞した、新聞用完全無処理CTPプレートのメリット、特徴を教えてください。

CTP版は刷版とも呼ばれ、印刷におけるハンの役割をします。新聞用完全無処理CTPプレートは、製版工程における現像処理廃液をゼロにでき、環境に優しく省コストに貢献しています。国内では読売新聞社が初めて実用化しました。刷版の表面には光を当てると固まる性質の材料(感光層)が塗られています。製版工程はCTPと呼ばれる装置で自動化され

ており、CTPのレーザー光で文字や図柄を描いて感光層を固めます。従来のCTP版では、光が当たっていない部分の感光層を現像液で洗い流す必要がありますが、新聞用完全無処理CTPプレートは現像処理の工程を省略でき、その代わりに、輪転機に装着後、インキの粘り気で光が当たっていない感光層をはがします。この方式は「機上現像」と呼ばれ、専用の現像設備や現像液が不要で、現像処理廃液を排出しません。

業界初のCTPプレート実用化において読売新聞の強みやらしさを感ずることはありましたか？

読売新聞社の強みは、社内にとりこまれた技術セクションがあり、他社に比べて使用する輪転機や印刷資材の規模が圧倒的に大きく、多くの条件でテスト評価できる点です。こうした強みがメーカーにメリットと評価され、実用化に向けての開発に協力を得られたと思います。読売新聞社らしさとは「チャレンジ精神」や「懐の深さ」でしょうか。実用化までの過程で苦労したこともありましたが、それ以上に新しいことに挑戦する面白さや、テスト中の難題も楽しみながら解決するといった雰囲気がありました。テスト方法やメーカーとの調整もほまかせてもらったので、懐の深い会社だとも思いました。

仕事の難しさを教えてください。

やりがいにも通じますが、新聞には毎日分単位で締め切りがあり、ちょっとした判断のミスや確認の甘さが即、その日の発行に影響を与える可能性がある点です。担当しているシステムで不具合が発生し、ある工場が朝刊印刷ができないかもしれない、といった経験もしました。深夜にタクシーで工場に駆け付け、協力メーカーの担当者と復旧にあたりました。無事、朝刊の印刷が開始できたときは、ほっと胸をなでおろしました。

仕事をする上で大切にしている思いや心がけがありましたら教えてください。

社内外を問わず、協力関係なしには仕事が成り立ちません。可能な限り足を運ぶこと、直接会って会話すること、謙虚であることを心がけています。

従来のCTP版(左)と完全無処理CTPプレート(右)を持つ坂本。完全無処理CTPプレートは見た目は真っ白である。



DIGITAL MEDIA

BUREAU

メディア局

ジャーナリズム∞デジタル



ISAMU TSUKAMOTO

塚本勇

メディア局企画開発部

東京本社 2003年入社



「新聞社でシステムの内製開発」

毎朝9時半、内製開発チームのデイリースクラム(朝会)から1日が始まる。各人の昨日今日の担当している仕事の進捗やプライベートなどまで情報共有する場で、話す内容は自由だ。仕事で良かったこと困っていること、昨日の打ち合わせ内容、子供の迎いで早く帰宅することなど、チームメンバー間で様々なことを共有する。それを続けることによって互いの信頼感が自然と生まれる。一人でできることは限られるが、良いチームであれば様々なことを具現化することができる。

内製開発チームでは、デジタルサービスに関するアイデアをサイト構築やスマホアプリ開発を行い実現する。デジタルの世界では、素早く永続的にシステムを柔軟に変えていかなければならない。外部業者のベンダーに開発を依頼する従来の開発スタイルでは、デジタルビジネスのスピードについていけないからだ。

現在はAndroidアプリの改修や新規WEBサイト構築、機械学習を用いた業務システムの改修などを手がけている。単にシステム開発を依頼されることはなく、プロジェクトのメンバーとして参画し、企画から携わることがほとんどだ。

この開発チームは発足して日も浅い。一緒にこれからの読売新聞を担うメンバーを募集している。是非、一緒に働こう。



Androidアプリの開発風景。Macbookとタブレットを接続し、機能試験をしている。



開発はMacbookで行っている。個々がMacbook内に仮想環境を案件毎に構築し、実装を行う。

CAREER PATH

- 1年目 (2003年) 東京本社技術一部 WEBエンジニアとしての採用だったが、一年間は新聞制作を経験。
- 2年目 (2004年) 東京本社メディア戦略局編集部 知識ゼロの状態からプログラムやインフラ、ミドルウェア等について学んだ。
- 5年目 (2007年) 東京本社技術一部 BtoB(企業間取引)向けシステムの新規開発や選挙報道システムを担当。
- 10年目 (2012年) 大手システム開発会社へお客様相手のシステム開発を経験。自分の甘さを痛感。
- 11年目 (2013年) 東京本社技術一部 読売オンラインのシステム移行を担当。
- 13年目 (2015年) グループ本社社長室システム企画部 読売タブレット開発や新規事業開発を担当。
- 14年目 (2016年) 東京本社メディア局企画開発部 アプリ開発やWEB開発などを社内で行う開発チームのリーダーを担当。

最新のデジタル技術で様々なコンテンツを紹介

デジタル・ストーリー

読売新聞には長年の報道によって積み重ねられた様々なコンテンツがあります。そのコンテンツを最新のデジタル技術で読者にわかりやすく紹介するのがヨミウリ・オンラインの人気コーナー「デジタル・ストーリー」です。写真や動画などを駆使して、見ている人が、自らその出来事を体験しているように感じさせるコンテンツとなっています。これまでも「新幹線 半世紀の旅」や「東京モーターショー 60年の軌跡」などが話題を呼んできました。2016年に公開

した、「THE BEATLES 50周年記念特集」では、読売新聞などが主催した50年前の公演の写真に加え、メンバーが東京を散策する様子など、未公開の写真300枚をデジタル化し、このうち約200枚を公開しました。さらに、早稲田大学理工学術院の石川博教授らの協力、白黒写真に自動で彩色する最新の技術を用い、当時の雰囲気をカラーで再現することに成功。オールドファンだけでなく若い世代にも話題を呼びました。

「新幹線 半世紀の旅」



「THE BEATLES 50周年記念特集」



採用 Q & A

Q. 「メディア」職種での採用はありますか？

「メディア職」採用というのは現在ありません。各職種で採用後、その職種で経験を積んでから、本人の希望や適性により、メディア局へ異動することになります。

Q. どのようなキャリアの人が多いのですか？

ニュースの編集やコンテンツ制作に携わる業務が多いこともあり、記者経験者が多いのですが、営業活動などもあり、業務職などでキャリアを積んだ人も在籍しています。

拡 がる メ デ ィ ア

インターネットやスマートフォンなどのデジタルメディア向けのサービスを拡充し、女性向けサイト「大手小町」や医療情報サイト「yomiDr.」などの人気コンテンツも多く擁しています。新たなニーズに着目し、読売KODOMO新聞を発行するなど、読者の「知りたい!」に応えるサービスも続々展開中です。

デジタルデバイス

DIGITAL MEDIA

読売プレミアム
YOMIURI PREMIUM

新聞購読者にプラスのサービスを提供



読売新聞購読者向けの有料デジタルサービス「読売プレミアム」では、スマートフォンやパソコン、タブレットから紙面の記事を読むことができます。緊急ニュースのメール配信、記事を保存できるスクラップや、過去記事検索、紙面イメージ表示など、様々な機能を備えています。

DIGITAL MEDIA

ヨミウリ・オンライン
YOMIURI ONLINE

多彩な情報発信、速報も読み物も



「ヨミウリ・オンライン(YOL)」は、読売新聞が国内外で取材した記事と写真を速報し、月間アクセスは約3億PVです。記事はYOLだけではなく、携帯電話サービス「NEWS読売・報知」、ヤフーなどのポータルサイト、サイネージといった多様なデジタルメディアにも配信されています。

新たな読者を開拓

NEW MEDIA

The Japan News

内外のニュースをリアルな英語で発信



読売新聞が独自に取材、編集し発行する日刊英字新聞です。日本や世界の最新ニュース、社説やコラムなど読売新聞と読み比べることで理解が深まります。日本で生活する外国人はもちろん、英語学習中の学生や社会人など様々な人に読まれています。

NEW MEDIA

読売KODOMO新聞

これまでにない、小学生向けメディア



週1回発行している小学生向けの新聞です。政治、経済、国際、スポーツなど様々な分野を難しい言葉を使わず、必要な要素を抜き出しわかりやすく伝えます。写真やイラストをふんだんに使い、子どもだけでなく家族みんなが楽しめる新聞です。世界新聞協会から表彰されました。

NEW MEDIA

読売中高生新聞

10代の好奇心に応える、新しい新聞



小学生対象の読売KODOMO新聞と読売新聞本紙とをつなぐ新しい媒体として創刊。ニュースやスポーツ、学習、ファッションなど、興味や関心の対象が多岐にわたる中高生に向けたこれまでに例のない新聞として認められ、世界新聞協会の世界青少年読者賞(編集部門)最高賞を受賞。

ヨミウリ・トピックス

時代に先駆け、新たなモノ・コトを生み出し続ける読売新聞

1
オリンピック・パラリンピック

読売新聞東京本社は、大阪本社、西部本社とともに、新聞界唯一の日本オリンピック委員会(JOC)オフィシャルパートナーとして2002年から日本代表選手団を応援してきました。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会とオフィシャル新聞パートナー契約を結んでいます。東京2020大会がより良い大会になるように、18年平昌冬季大会を含めて、日本代表選手団を応援します。



リオ感動ありがとう



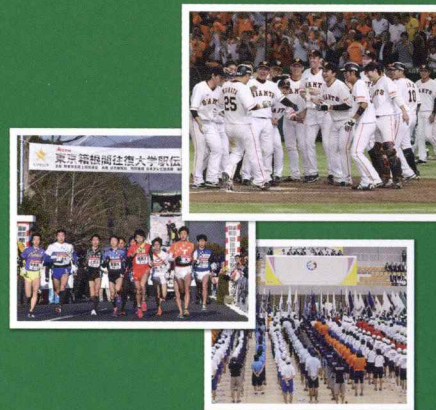
ヨミウリ豆知識

「オリンピック」を意味する「五輪」という言葉を最初に使ったのは読売新聞です。読売新聞の運動部記者で、後にスポーツ評論家に転じた川本信正が、1936年に次期開催地が東京に決まった(後に、戦争の影響で返上)際に、五輪と言いつつ換えました。宮本武蔵の「五輪の書」にヒントを得たといわれ、その後、日本中に定着しました。

topics

2
スポーツ

日本初のプロ野球球団創立から箱根駅まで



プロ野球の巨人戦や東京マラソン、箱根駅伝(東京箱根間往復駅伝競走)を開催し、スポーツの素晴らしさを伝える手助けをしています。全国高校サッカー選手権を後援するなど、学生スポーツにも積極的に取り組んでいます。2013年からは、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)の共催に加わっています。

topics

4
オーケストラ



世界で一つだけプロ・オーケストラを持つ新聞社

読売新聞は、世界で唯一、プロ・オーケストラ(読売日本交響楽団=読響)を持つ新聞社。1962年の創立以来、世界的な巨匠を指揮台に招き、数多くの名演を残しています。近年は、ミュージカルスターとの競演で演奏を楽しむ「ミュージカル・ミーツ・シンフォニー」シリーズも展開し、人気を博しています。

topics

3
教育

教育報道の充実に注力

読売新聞は、教育報道の充実に力を注いでいます。2013年には東京本社に教育部を新設し、日々のニュースから企画記事までを専門記者が取材する体制を整えました。長期連載「教育ルネサンス」で変わり行く教育現場の「今」を伝え続けると共に、2015年から2016年にかけては、教科書会社が検定中の教科書を校長らに見せ、謝礼を渡していた問題を相次いで特報。教育界の「闇」に鋭く迫り続けています。



読売新聞の DIVERSITY ダイバーシティ

読売新聞では、一人ひとりが適性や意欲、ライフスタイルに応じて、最大限に能力を発揮できる環境づくりを推進しています。



MEGUMI KIDONO'S WORDS

北海道・仙台・名古屋と
全国を飛び回り
喉がかわるまでPR活動を行いました。

私 が新聞社で何か役に立てるのだろうか— 入社前、そんな不安を抱えていたのを憶えています。私は経営管理部門で採用され、すぐに採用担当に配属されました。入社早々、私を待ち受けていたのは会社説明会の出張でした。普段、私は電動車椅子を使用していますが、北海道・仙台・名古屋と全国各地を飛び回りました。学生の前に立ち、喉がかわるまでPR活動を行う毎日でした。「障害があるからできない、させない」ではなく、「どんなことができるか、やってみよう」という会社の心意気で私はたくさんの仕事を任せられました。あっという間に4年目となり、現在は労務部で社員の勤怠管理業務を担当しています。以前に比べ、社内にいることがほとんどですが、給与に直結する仕事のため、毎日神経を使っています。読売新聞には、私のように障害を持ちながら働いている社員が数多くいます。今は最初の不安は全くありません。これからも新聞社を支える一人として、様々な仕事に挑戦していきたいです。

CAREER PATH

- 1年目 東京本社人事採用担当 内定(2013年) が決まり号泣する学生を見て、一年前の自分を思い出して嬉しかった。
- 2年目 東京本社健康対策室 読売新聞の社員の多さ、関連会社の多さに驚き、業務の重みを感じた。
- 現在 東京本社労務部健康対策課 社員のより良い働き方についても検討。他社制度や国の指針を常にチェック。

城殿恵 MEGUMI KIDONO

2013年入社
東京本社
労務部 健康対策課

あらゆるフィールドで活躍!

この10年間に採用された約40人の配属実績を示しました。表に示した以外の配属部署も希望できます。

仕事内容	部署	障がい内容				
		上肢	下肢	視覚	聴覚	その他
事務職	ブランド企画部、人事部、総務部、経理部、広告審査部、販売監査部、各支社、各局管理・事務部門	●	●	●	●	●
取材記者職	生活部、写真部、世論調査部、中部支社編集センター	●	●	●		
編集記者職	編成部、校閲部、英字新聞部、デザイン部、メディア局編集部、データベース部	●	●		●	●
営業渉外職	マーケティング戦略部、事業開発部、文化事業部	●	●		●	

採用担当者から

読売新聞社で働く目的と熱意を持ち、自ら問題を発見して解決方法を考え、それを実行、検証できる人を求めています。新聞社の社員は、一人ひとりが大きな権限と責任を持って働いています。職種を問わず、高いレベルの判断力を必要とします。障がいのために「できないこと」

は可能な限りサポートをします。「できること」は何かを考えてください。みなさんの先輩たちは、「できること」を生かして様々な職場で活躍しています。私たちは、みなさんにも先輩たちと同じように生き生きと働いてもらいたいと願っています。

両立支援制度紹介

出産・育児休業

つわりや通院のための有給休暇が15日間あります。産前産後休業は、産前56日以内、産後56日以上で計112日です。育児休業は、子どもが2歳に達する年度末まで取得できます。

育児短時間勤務

子どもが小学校3年生を修了するまでの間、1日最大2時間の勤務時間短縮が可能です。また、子どもが1歳に達するまでは、最大3時間短縮できます。

退職者再雇用制度

結婚・出産・育児・介護・配偶者の転勤など、家庭の事情でやむを得ず退職する社員について、本人が希望し、会社が認めた場合に復職できます。



東京本社には、全国の新聞社でも珍しい事業所内保育所があります。本社在勤の従業員の子どものみ(生後57日~未就学児)であれば誰でも利用することが可能。延長保育や一時保育などにも対応し、仕事と子育ての両立をサポートします。保育内容にもこだわり、紙を扱う新聞社の特徴を生かして、子どもたちが木と触れ合える「木育」を取り入れています。

yomikaki no mori



私も利用しています!



RYOKO TOMITA'S WORDS

上司や同僚の温かいサポートで
スムーズな仕事ができる。

長 男出産後、職場復帰して1年半。17時を回ると仕事の手を止め、息子を迎える保育園に向かいます。以前は夜勤で朝刊の編集もしていましたが、今は昼間の夕刊作業が中心。社内には時短勤務のほか保育園もあり、息子も保育園で半年間お世話になりました。制度の充実はありませんが、それだけでは大変です。スムーズに仕事ができるのは上司や同僚の温かなサポートがあってこそ。復帰当初は細かな業務内容をすっかり忘れていましたが、粘り強く見守ってもらいました。息子が病気になるれば、業務の引継ぎをして早退させてもらいます。いったん仕事から離れることで新たな動機づけもできました。休業中、子供の世話に追われ新聞を読まず、スマホでニュースや話題を見ていた時期がありました。余裕ができてまた新聞を開くと、各分野の情報や話題が彩りよく収まっています。「健康な情報のお弁当みたい」と、これまでの仕事の意義を再確認しました。きっと、興味ある情報だけを追い求めていて、甘いものの食べ過ぎのようになっていたんですね。これからは、そのバランスのいいお弁当作りを少しずつ上達させたい。大人も子供もみんながおいしく味わってもらえるような。そうして、支えてくれる人たちへ自分なりの恩返しができるかなと思っています。

CAREER PATH

- 1年目 東京本社地方部福島支局 事件・事故取材や話題もの取材。読者から記事の感想が届くうれしかった。
- 2年目 東京本社地方部会津若松支局 自然や伝統が色濃く残る17市町村を走り回る。知事汚職事件の取材も。
- 3年目 東京本社地方部福島支局 県や学校、病院などを担当。後に東日本大震災で被害を受ける沿岸部も歩く。
- 5年目 東京本社編成部 全国版ニュース、文化・医療など特集面の編集。「伝わる紙面とは」を考える。
- 8年目 東京本社人事部 育児・介護をしながら働く人をサポート。社内保育園の立ち上げに関わる。
- 9年目 東京本社編成部 長男出産。
- 現在 ニュース面のほか、イラストを大きく使った「見る記事」をデザイン部と担当。

富田良子 RYOKO TOMITA

2005年入社
東京本社
編集局 編成部



息子が近くにいるから安心!

内定者 Q&A

Prospective Employee Q&A



西部本社
内定

MASAKO OKAMOTO



東京本社
内定

SHO MATSUSHITA



東京本社
内定

AZUSA NAKANO



大阪本社
内定

KEITA SAKATO



東京本社
内定

INSHOU MAEDA



技術総合職
内定

HANAKO HIRATA

読売新聞に内定した先輩たちは、就職活動中どう感じていたのだろう!?
気になる志望動機や苦労したことなどを聞いてみました。

Q.01

新聞社への就職を希望した理由は何ですか?

「自分にとって身近な企業に就職したい」と考えていた私にとって一番最初に浮かんできたのが新聞でした。新聞は物心ついた頃から手にとって読んでおり、常に私の身近な存在でした。手軽に買える値段で正確な情報がたくさん詰まっている「新聞の魅力」にもっと多くの方に気づいてほしいと思い、新聞社への就職を希望しました。

情報があふれる現代社会において、絶対的な情報源として信頼を得る新聞の制作に携わることによって**社会貢献がしたい**と考えたからです。私は、勉強してきたことを活かせるフィールドで働くことを望んでいたため、憧れの新聞社にも**理系採用があることを知り目からウロコ**でした。

Q.02

読売新聞を選んだ一番の決め手を教えてください

「ここ!」という運命的な直感があったから! ...ですが敢えて分析するとしたら、「**人**を大切に**する企業風土**に魅力を感じたからです。選考過程で、これほど多く、社員の方々と話しし、社内の雰囲気を知る機会が設けられている会社は他に無く、学生一人一人を丁寧にみてくださっていると感じました。選考が進むにつれ、読売新聞が益々好きになりました。



1年生のときから「**キャンパススコープ**」という学生新聞を読売新聞の社員の方々と作らせていただいていた、とても楽しかったことが一番の理由です。読売新聞の方々はいい意味で個性が強く、刺激を与えてくれる人ばかりです。面見もよくて、社会人としてのふるまいからお酒の飲み方まで、たくさんのことを教えてくれました。こんな人たちとこの先も一緒に働けたらいいなと思ったのが決め手です。

総支局体験が面白かったことが一番の決め手です。お世話になった総支局での模擬取材や懇親会を通じて、現場の雰囲気を体感するなかで「**ここで働いたら面白いだろうな**」という思いが強くなりました。子育てをしながら働く女性記者や女性キャップの方々の活躍を知ることができたのも、「ここで働こう」と決めた要因の一つです。

実家が読売新聞を購読しており、親しみがありました。大学2年頃から、新聞を読む回数が増え、政治関連の記事を中心に、独自の記事が多いことに気づきました。就職活動では、新聞社以外の企業も頭をよぎりましたが、生まれ育った大阪を軸足に、**関西で取材ができる**大阪本社の存在が決め手になりました。

私は販売戦略コースの**インターンシップ**に参加しました。YCへ訪問した際に、所長さんの新聞に対する熱い思いや新聞制作の現場を目にして、その「本気度」に強く引き付けられました。それ以上に読売新聞を選んだ決め手は**小さい頃から慣れ親しんだ新聞社だから**です。「自分が読んでいた新聞を一人でも多くの方に読んでほしい。」この思いが私の根本にあり、読売新聞社を選びました。

Q.03

あなたが学生時代に頑張ってきたことは何ですか?

2つの学生新聞団体での活動です。キャンパススコープでは農家・和紙職人・レスリング選手や街頭取材など多くの人に取材しました。**編集長としてチーム取材をとりまとめたり、紙面構成を考える**機会もありました。また、大学のスポーツ新聞サークルにも所属していて、**六大学野球を3年間追いかけていました**。人に話を聞いて、それを文章で人に伝えることを日々頑張っていました。



私は、小さい頃から野球をやってきました。高校までは選手として、大学ではマネージャーとしてチームを支える立場も経験しました。特に大学のマネージャーとして頑張ったことは3年生の3月に行った**アメリカキャンプ**です。異国の地で3週間弱、予算は数千万円規模。80人の団体を率いてのキャンプは1年前から企画し、当時はとても辛かったですが、**かけがえのない経験**ができました。

Q.04

就職活動を通じて、悩んだこと、苦労したことは何ですか?

教育実習と就職活動の時期が重なったことです。実習中は、朝から夕方まで実習校で過ごし、帰宅後も翌日の授業準備や課題の採点に追われるため、物理的にも精神的にも両立は大変でした。信頼してくれる生徒たちへの申し訳ない気持ちにも苦悩しました。しかし、どちらも貴重な経験であり、教職に就かないことを理由に、実習を諦めないで本当に良かったと思っています。

就職活動では、明確な合格ラインや自分の偏差値が示されるわけでもなく、何をどうすればいいのか分からずいました。大学入試や在学中の定期試験のように解答がない分、**自分で考えて行動しなければいけない**。現実**に苦勞し、悩んだこと**を覚えています。しかし、わからないなりに、そこから何を考え行動するかが非常に重要だと就職活動を通じて学びました。



Q.06

これまでの人生の中での転機は何でしたか?

高校生の時、**オーストラリアに短期留学**し、色々な人々と身近に接したことです。それまで海外に漠然とした憧れを抱いていましたが、実際に1か月暮らしたことで、他の国も見てみたいという興味が広がり、外国語大学を目指すきっかけになりました。あの留学がなければ、ポルトガル語を学ぶことも、ブラジルに行くこともなかったと思います。その時に知り合った友達とは今でも連絡を取り合う仲です。

野球での挫折が転機になりました。高校時代は主戦投手でしたが、大学時代に所属した社会人チームで、実力不足を思い知らされました。そのため、連投の利く持ち味を生かし、中継ぎ投手として勝利に貢献できるよう心がけました。スコア付けなどの裏方も経験し、組織の中での役割を全うすることの大切さを学びました。



Q.08

あなたが考える読売新聞の魅力とは?

記者を育てるシステムが整っていることではないでしょうか。記者塾と呼ばれる新人のための研修が、約3か月間あるからです。多くの現役記者さんやOBの方からは、記者としての基礎をきちんと教えてくれるのが読売新聞だと聞きました。私も基礎をしっかりと身につけて、早く一人前の記者になりたいと思っています。

Q.05

あなたの一番の強みとは?

どんな状況でも、**前向きに捉えることができる**点です。ブラジルに留学した際、大学教員が給与未払いでストを起し、大学の授業が半年ほど間、なくなってしまったことがありました。帰国しようかとも思いましたが、**ピンチはチャンス**と自分に何ができるかを考え、留学生と現地学生との交流会を主催したり日本語を学ぶブラジル人の活動に参加したりしました。語学力も伸び、一生付き合える友達もできました。

「**何事も前向きなところ**」だと考えています。憧れから化学を専攻したために、難解な授業や友人達との熟意の差から転部を考えたことが何度もありました。しかし、化学から学ぶこともあると考えを改め、一から化学を学び直しました。最先端の研究を学ぶために**海外研修への参加**を決意した際、化学と積極的に向き合う自分に気付き、継続が力となり自信へつながることを実感しました。



Q.07

入社後、どのような仕事をしたいですか?

大学3年の時に滞在したカンボジアで、汚職問題や、言論弾圧の問題を知り、一方日本では、アルバイト先で非正規雇用者の多さや人手不足による長時間労働の実態を目の当たりにしました。今では、社会には私が学んできた教科書に記載されない事実がいくつも存在するのではないかと考えており、入社後はこのような**国内外の社会問題について取材**をしたいと思っています。

やりたいことは沢山あります。社会部でバリバリ事件取材もしてみたいですし、日本と外国との架け橋となる国際部の仕事にも興味があります。「**医療の読売**」との看板を背負う医療部でしてみたい仕事もありますし、文化部で大好きな演劇に関わりたくとも思います。しかし、とにかく最初は、**支局生活で記者としての基礎体力を身につけ**、自分の適性や将来進むべき道を考えていきたいと思っています。



個性的な社員がたくさんいることだと思います。キャンパススコープやアルバイト、就職活動でそういう社員の方にたくさん知り合いましたし、内定者も今後活躍していくんだろうという面白い人ばかりです。そういう新聞社は、当然いい新聞を作れるし、常に刺激をもらいながら楽しく働けるのではないかと思います。あとは、発行部数世界最大で、グループ企業もたくさんあるので、企業としての体力があることも魅力に感じています。

私は「働くからには業界を引っ張る会社で活躍したい」と考えていました。読売新聞は新聞業界だけでなく、日本のマスコミをリードする会社であることが大きな魅力だと思います。**発行部数「世界一」を支える確かな販売網**は他社にはない強みであり、社会に与える影響力はとて大きいと思います。業界をリードする会社で働くことは責任重大ですが、良いモチベーションになると思います。



読売新聞

YOMIURI ONLINE
<http://www.yomiuri.co.jp/>

読売新聞東京本社人事部	TEL.03-3216-8650
読売新聞大阪本社人事部	TEL.06-6366-1545
読売新聞西部本社人事部	TEL.092-715-4915

採用HP
<http://saiyou.yomiuri.co.jp/>



採用Facebook
<http://www.facebook.com/yomiurisaiyou>

